

平成22年度 北海道内の大学発ベンチャーアンケート調査結果（回答:43社）

平成22年度は、北海道内の大学発ベンチャーの現況と課題についてアンケート調査を実施し、43社から回答を得ました。

1. 道内大学発ベンチャーの現状

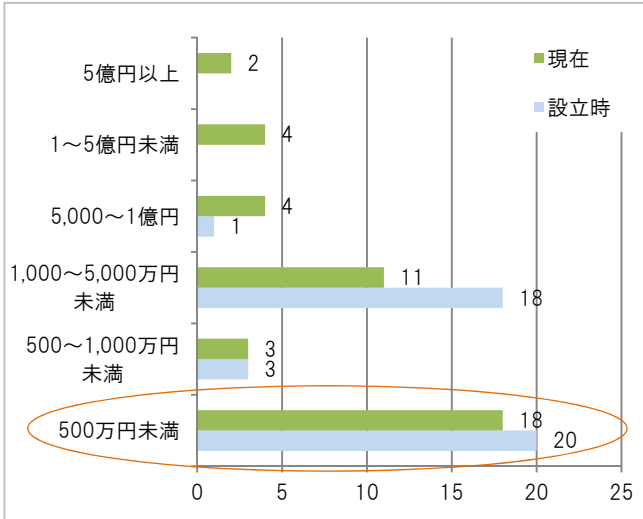
(1) 資本金

- ▶道内大学発ベンチャーの資本金は、500万円未満の企業が約40%。
- ▶資本金の出資構成で「自己資金」が最も高い企業は約60%。
- ▶株式公開をした企業はなく、約70%の企業は株式公開を希望していない。

<図1>

【資本金】

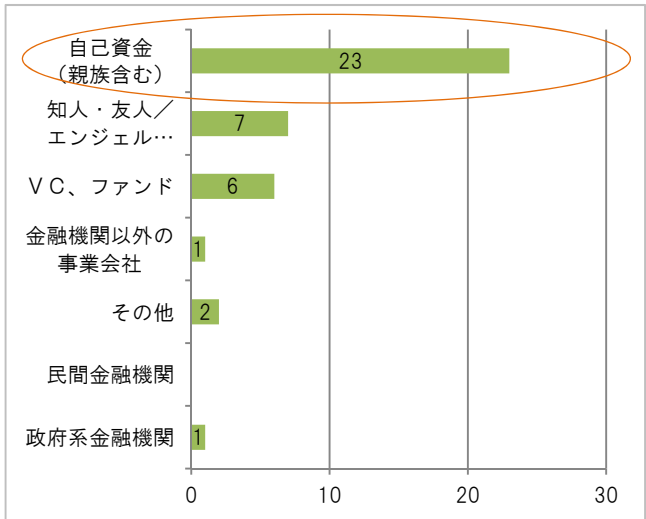
※回答企業：42社



<図2>

【資本金出資構成で一番高いもの】

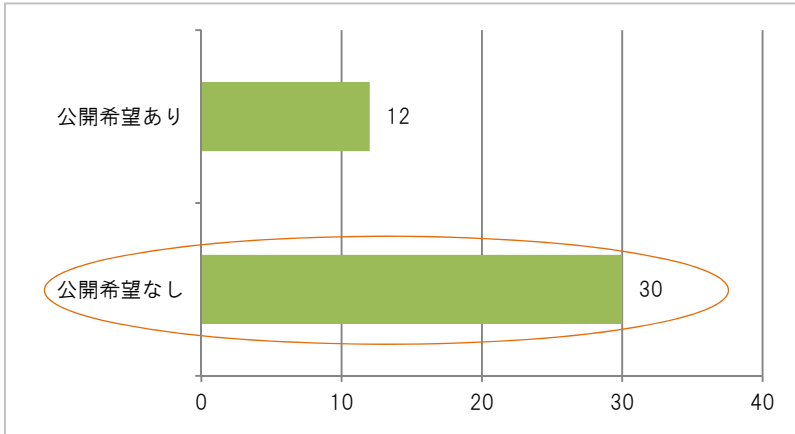
※回答企業:40社



<図3>

【新規株式公開】

※回答企業:42社



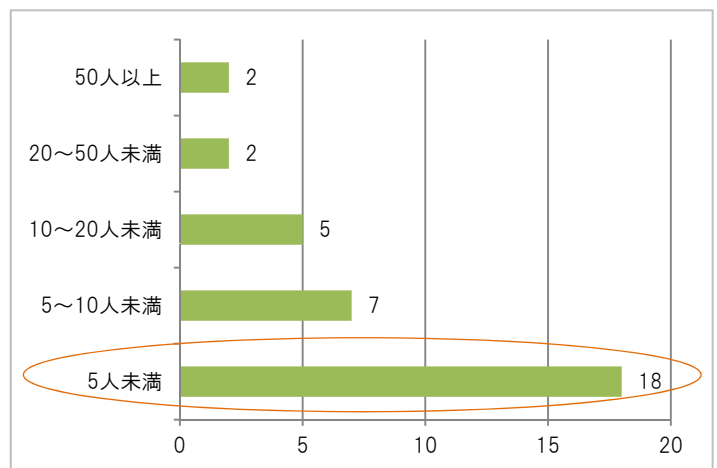
(2) 従業員

- ▶道内大学発ベンチャーの従業員は、回答企業34社で計400名。
- ▶5人未満の企業が約50%を占めるが、50名以上の企業も存在。

<図4>

【従業員】

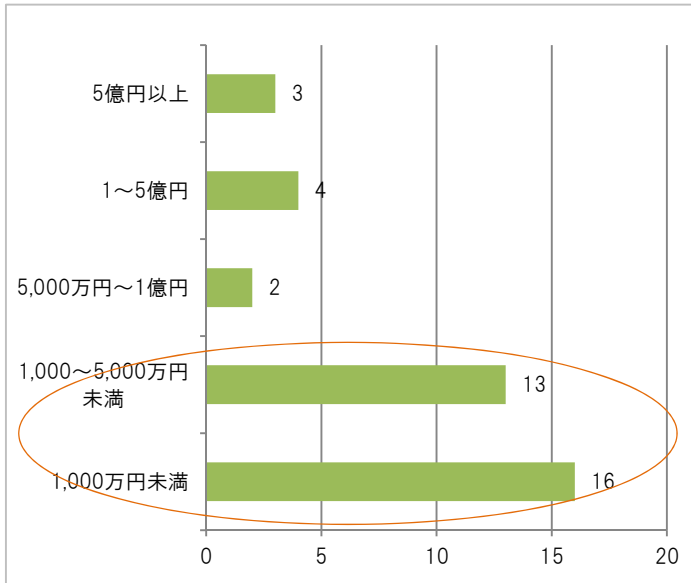
※回答企業:34社



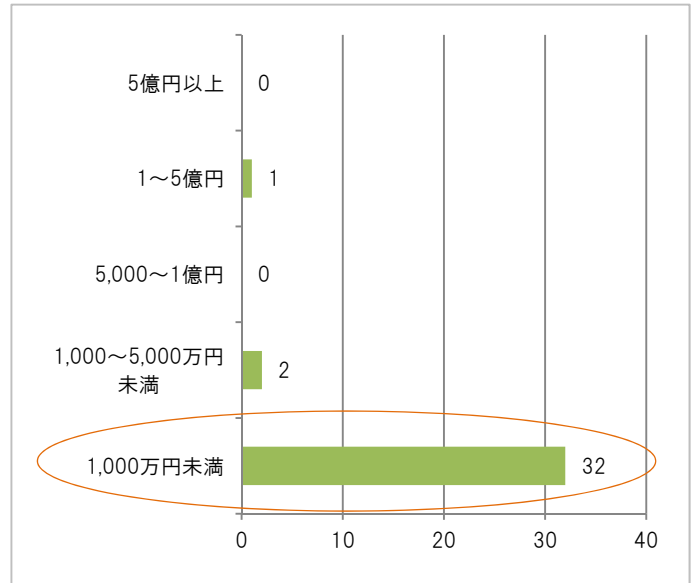
(3) 売上高・営業損益

- 道内大学発ベンチャーの売上高(直近年度)は、5,000万円未満の企業が約80%を占める。
- 道内大学発ベンチャーの営業損益(直近年度)は、1,000万円未満の企業が約90%。

<図5> 【売上高(直近年度)】 ※回答企業:38社



<図6> 【営業損益(直近年度)】 ※回答企業:35社



2. 道内大学発ベンチャーが直面する課題

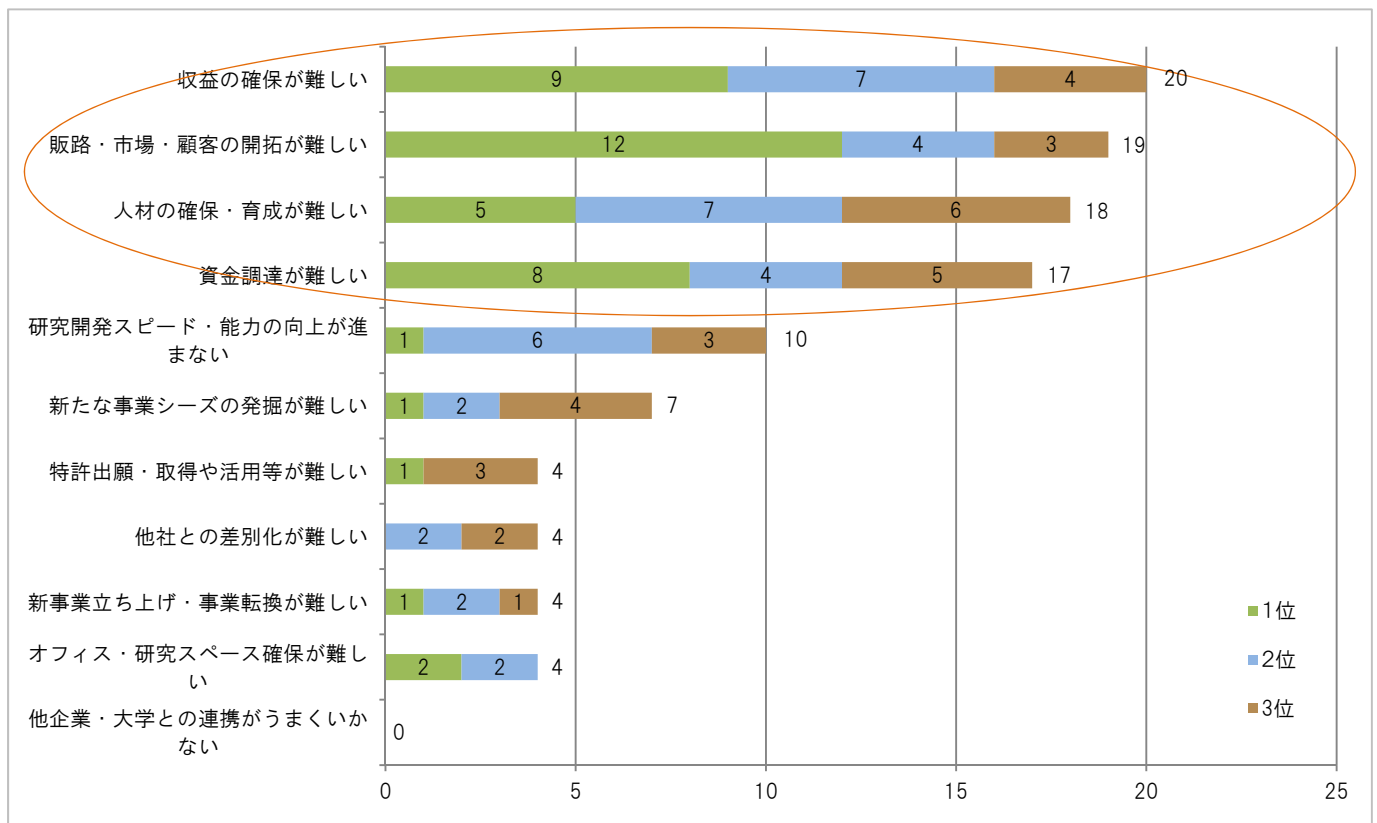
(1) 課題

- 道内大学発ベンチャーが直面する主な課題は、収益確保、販路・市場・顧客の開拓、人材の確保・育成、資金調達が挙げられる。

<図7>

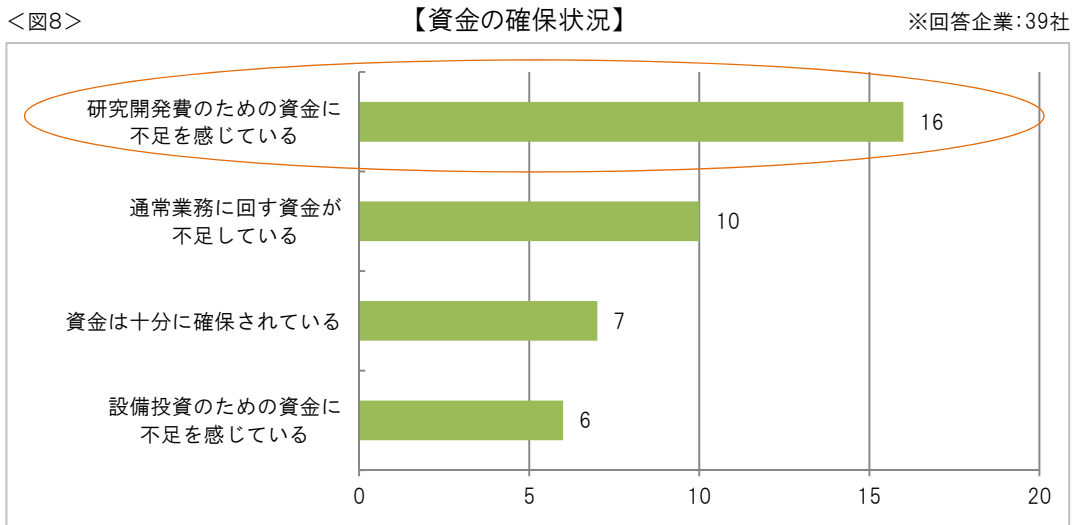
【直面する課題】

※回答企業:40社



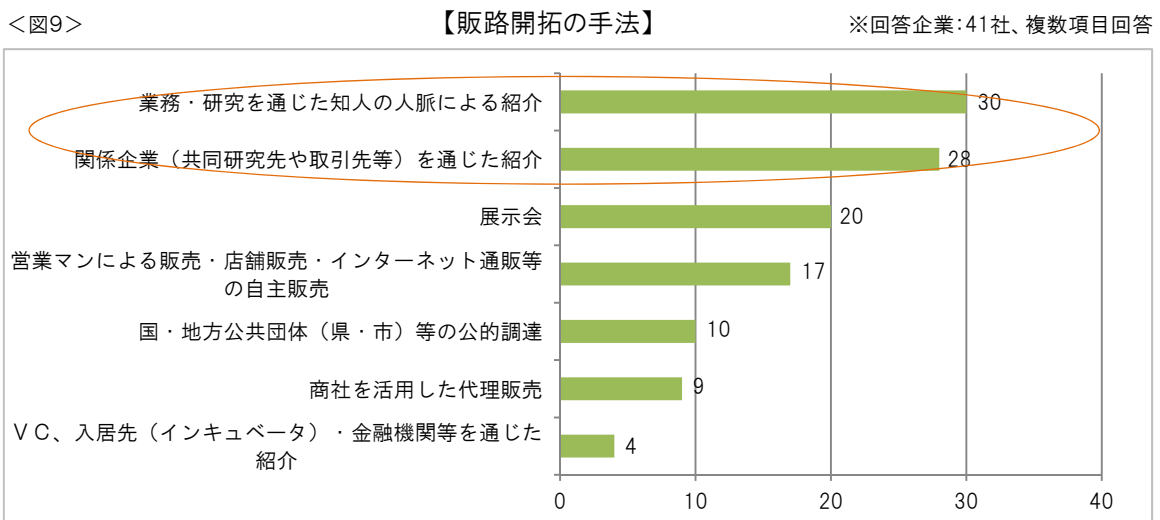
(2) 資金面の状況

▶道内大学発ベンチャーの多くが、資金調達を課題の一つとしてあげているが、その約40%が『研究開発のための資金』に不足を感じている。また、通常の業務に回す資金が不足していると回答している企業も25%と多い。



(3) 販路開拓の手法

▶販路開拓の手法は業務・研究を通じた知人の人脈や関係企業(共同研究先や取引先等)など事業を通じた人の繋がりを活用した手法が多い。



(4) 今後、増強が必要な人材

▶今後、増強が必要な人材としては、研究・技術スタッフが最も多く、次いで技術開発戦略の策定・執行ができる人材となっており、技術系人材の不足感が強い。

